NPO関西事業再生支援センターだより

大阪の中小企業を元気に！

>273<

事業再生に関するIT活用

収益性の向上のためのIT活用ですが、ただ単にIT機器を「使うだけ」の企業と、「活用している」企業との差は歴然と出てきます。私がコンサルティングに入って最初に確認することは、いろいろなソフトを使ってパソコンを使い続ける業務をしている人がいるなら、その人が使うパソコンの画面はいくつあるか、ということを確認します。そのような業務であれば、画面は少なくとも2画面あるべきです。

例えば私の家内は、会計ソフトにデータを入力するときは、もう2画面でないと考えられないと言います。もし1画面しかなければ、1画面上で資料を探し、その画面を閉じて、入力画面を出す。こんな作業の繰り返しは時間の無駄です。2画面であれば、片側は入力画面のままで、もう片側で資料を表示させ、スイスイ入力してゆけます。また、2画面にするための初期投資はわずかです。ディスプレーと2画面にするためのアダプターを購入するならば、おそらく2万円程度でできるでしょう。

とある会社で2画面と1画面で作業をする場合の作業効率を調べたら、2画面のほうは30％作業効率がよかったそうです。この前提で計算すると、パートさんの1カ月の給料が10万円として、30％作業効率が上がれば、13万円分の仕事をしてくれると考えられます。今パソコンのディスプレーが約2万円として、たったの1カ月で元が取れます。1年であれば、単純計算で36万円のコストダウン。3年なら108万円のコストダウン。いかに永続的に効果があるか分かります。

極端な例ですが、外資系大手証券アナリストの会社では、1人が6画面あるパソコンを使っています。ほとんど株価の確認用ですが、その都度画面を開いたり閉じたりすると、その瞬間に株価が変わるので、取引のチャンスを逃してしまうからのようです。

ちょっと細かな話になってしまいましたが、もっとITを業務活用する方法があります。最近は経営情報をクラウド（インターネット）上に持って行き、会社でも自宅でも外出先でも取引先でも、電車の中でさえも、必要な情報をいつでもどこでもパソコンで見ることができ、仕事ができるようになってきています。そうすると資料を会社に取りに帰るといった無駄がなくなり、飛躍的な業務改善につながります。

今はそういったことを可能にする多くのサービスがあります。たとえば、マイクロソフトのOffice365というクラウドサービスがあります。これは非常に優れたサービスで、上記のような業務改善につながるほか、最新のOfficeソフトが1ユーザー5台までパソコンにインストールして利用できて月額千数百円と、かなり安価に導入ができます。

またこのサービスは、複数人でファイルを同時に編集しながら、パソコン上で会議もできる優れもので、会議のための交通費や移動の時間を考えると、あっという間に元が取れるだけでなく、収益性も向上させてくれます。大手では続々と導入をしていて、地方自治体でも利用がはじまっています。

このように、ITを活用している企業と活用していない企業の差は、収益性の差として確実に広がってきます。先ほどの話に戻れば、大手外資系証券アナリスト会社で社員が1画面のパソコンしか使っていなかったら、他社に情報やスピードの差で負けてしまって、小さな差の積み重ねで、今では会社が存在していないと思われます。中小零細企業の場合でも、ディスプレーが一つ余分にあるかどうかという小さな差で、収益性が大きく変わってきますので、ぜひとも収益性につながるITの活用に取り組んでいただきたいと思います。

これまでITの活用の重要性を取り上げましたが、ITの活用をする・しないで収益性は大きく変わってきます。特にITの世界は、新しいものがすべて良いものとは限らないけれど、新しいものを活用することがとても大きなチャンスを含んでいることがあります。最近は農業をやったことがないIT企業がクラウドを活用して、農業に進出している例が出てきています。

私も元製造業でしたが、ITの進化のおかげで、今、地域の活性化やコンサルティングの仕事ができているとつくづく感じます。私はこれからの日本の成長の種は、ITにあると思っています。ぜひITを単なる「利用」ではなく「活用」をして、数多くの中小零細企業が事業の成功につなげていただけることを願っています。

（NPO関西事業再生支援センター、エックスアイティー株式会社代表取締役、本間文也）